

意見交換会(平成28年7月25日(月)開催)における、当日出された意見等で執行部への回答を求めたもの

範囲	内容	執行部の回答
1	<p>金沢産の農産物は非常にニーズがあるが、物流量が少ないため、常に売り場に豊富な地場物を並べたいというニーズにこたえられず、せっかくの機会を逃している。</p> <p>そこで、新規就農を希望する方を育てることで、物流量を確保するための産地をつくる施策を実施してはどうか。</p>	<p>物流量を確保するためには新規就農の担い手を確保することが一つの大きな柱である。近年の新規就農者については、金沢市の農業大学校や県のいしかわ耕稼塾の修了生など年間20人前後が就農している状況である。</p> <p>加えて、風潮として農業を目指す若者もふえており、今年度からは農業大学校の充実や、首都圏からの就農希望者を誘致する取り組みを行って、東京で相談、周知事業を展開している。先日も農業まつりに合わせて開催した就農ツアーに首都圏から4名の参加があった。</p> <p>また、地域農業の担い手と中心的な担い手となる認定農業者や集落営農組織の育成を進めており、支援の強化や農業所得の向上にも今後さらに推進していきたいと思っている。</p> <p>県や農協とも連携して、新規就農者の発掘や地域を支える農業者の担い手を育成し、産地の拡大やブランド化をあわせて進めることで、物流量を確保していきたい。</p>
2	<p>山間地では、農業従事者が減ったため、今まで複数人でしていた農道の管理なども1人でやらざるを得ない状況である。</p> <p>こうした作業には限界があるので、市で何か協力してもらえないのか。</p>	<p>中山間地における課題として担い手がないということだが、中山間地においては集落単位による農地の維持を目的とした国の直接支払制度がある。これまで農地の保全や遊休農地の拡大防止に集落単位で取り組んできたところだが、近年、農業従事者の減少に伴って集落単位では取り組めないところが出てきていることも事実である。</p> <p>近隣の複数の集落が連携して広域で農地や農道、水路等の保全活動を推進することなど、状況に応じた支援、指導、助言を行い、中山間地の課題に対応していきたい。</p>
3	<p>本市の農業振興施策は、非常にすばらしく、評価できるものが多いとの声もあるが、現状としては、農家数や耕作面積は減っている。</p> <p>一つ一つはよい施策であっても、全体の歯どめに全くなっていないようだが、市はどのように考えているのか。</p>	<p>農家の耕作面積は指摘のとおり減っていることから、これまでの回答と重複する部分もあるが、農業大学校での育成と農業参入への相談、首都圏での就農移住促進も含めて一生懸命取り組んでいきたい。</p> <p>また、担い手の育成に当たっては、所得の向上が非常に大きな課題であり、農地の集約化や集落営農の組織化、生産基盤の整備、稲作と園芸を重ね合わせた農作業の効率化や経費の削減のほか、生産性を高める取り組みを今後も一層強化していきたい。</p> <p>金沢の農業と森づくりプラン2025を着実に実践して、希望と誇りの持てる強い農業に取り組んでいきたい。</p>

意見交換会(平成28年7月25日(月)開催)における、当日出された意見等で執行部への回答を求めたもの

範囲	内容	執行部の回答
4	<p>エネルギーの問題を考えたとき、ペレットストーブの設置1件につき10万円を補助しているように、金沢の森林から出る間伐材をペレットにし、熱エネルギーとして少しでも活用できるような施策を市としてもっとやるべきでないか。</p>	<p>ペレットに関連しての質問だが、残念ながら現在、金沢産材を材料にしてペレットを製造しているところはなく、製材所から出る端材などを材料として試験的にペレットを製造している市内の零細企業に若干の支援を行っている。</p> <p>しかしながら、ペレットを利用することは、市民の方々に木材を利用することの意義について考えてもらう大きなきっかけになると考えていて、これまで教育プラザや市役所本庁など15の公共施設にペレットストーブを設置してきたほか、フォーラムなどを開催し市民の方々にPRを行ってきた。また、現在整備中の金沢プールに年間稼働するペレットボイラーを設置していて、今後はボイラーの普及も進めていきたいと考えている。</p> <p>そのほか、民間で市内にたくさんある竹を用いて、エネルギーとして活用しようという動きもあるので、できる限りの協力をしていきたい。</p>
5	<p>林業に関する事項</p> <p>小学校の入学生全ての机を金沢産材の間伐材からつくった天板にして6年間使い、卒業時に持ち帰ってもらうことを提案したが、市は、傷がつかないかたい集成材に加工した天板に交換しているのみである。</p> <p>この事業は、単に天板を金沢産材にかえるというお金のかけ方ではなく、地元の木を使おうという心を育てる教育としてやってほしいと考えているが、市はどのように考えているのか。</p>	<p>小学校の机の天板についての質問だが、この事業を開始した直後には、天板の表面には杉の板をそのまま使っていたが、傷が付きやすいという意見が学校から出て、現在はその表面にメラミン化粧板を張っている。無垢の木のすばらしさは大変理解できるが、実用性や費用的な面などを考慮すると、一定の加工は必要なのではないかと考えており、集成材であっても地元の木を使うことの大切さは十分理解いただけると考えている。</p> <p>このほかに、市内の小中学校ではぬくもりの教室整備として、年間3校程度だが教室の壁や床を金沢産材に張りかえたり、この事業を実施した学校では森づくり専門員による出前講座なども行っており、今後とも子どものころから木に親しんだり触れ合ったり学ぶ機会をふやしていきたいと思っている。</p>
6	<p>金沢産材は、高いので使えないと言われるが、動かすほど経費がかかるなど、現状の伐採と搬出には問題点が多いという指摘がある。</p> <p>どうしたらコストが削減できるか、有効な活用ができるかなどの問題点について、検証すべき時期にきていると思うが、市はどのように考えているのか。</p>	<p>林業のコスト削減についての質問だが、昭和30年代から40年代ごろにかけて盛んに木が植えられてきたが、既に4、50年経過して大きく育ち、本格的な利用期を迎えているのが日本全国共通の現状である。こうした貴重な資源を活用することが大事で、切って使って、植えて育ててという森林の循環利用を進めていくことが極めて大切だと思っている。</p> <p>しかしながら、今ほどの指摘のとおり、木材価格の低迷や人件費の高騰によって木を売ってもほとんどもうからないのが現状であり、そういう状況が続いている。そのため、昨年度策定した金沢の農業と森づくりプラン2025の中で、高性能林業機械の導入やITの活用などによって低コスト化を図り、持続可能な林業経営の実現を目指すという目標も掲げたので、引き続き事業者などと協議をして具体的な取り組みを少しでも進めていきたいと考えている。</p>